

2024年3月更新

日本のデザイナーのための 第2回デザイン賞

主催：在日フランス大使館、モビリエ・ナショナル



モビリエ・ナショナルの工房の風景 © EETY Studio (Emi Endo+Yohei Tomooka)

在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセは、モビリエ・ナショナル—フランス国営動産管理局と協働し、日本のデザイナーを対象とする第2回デザイン賞を開催します。受賞者は副賞として、フランスで一ヶ月間、デザインのプロジェクトに向けたリサーチのためのレジデンスを行う権利を得ます。受賞者は滞在中に、モビリエ・ナショナルやそのコレクションや工房を発見し、受賞プロジェクトの実現のためにモビリエ・ナショナルからの専門的なサポートを受けます。工房の見学や、現地のデザイナーや職人、彼らのサヴォアフェール（匠の技）との出会いを通して理解・交流を深めることができます。

モビリエ・ナショナルの創造と修復のための工房は、その卓越したサヴォアフェール（匠の技）を継承し続けています。特に、公共建築物の家具や装飾を管理するアトリエ・ド・ルシェルシュ・エ・ド・クレアシオン（Atelier de Recherche et de Création - ARC-）で製作される作品は、モビリエ・ナショナルの工房から生まれるすべての作品と同様に、

フォルムや製作技術の両面において、最先端のイノベーションを誇るフランスデザインの象徴であることを目指しています。受賞者は、アトリエ・ド・ルシェルシュ・エ・ド・クレアション（Atelier de Recherche et de Création - ARC-）の職人や、機織職人たちからのサポートも得ることができます。さらに家具製造、椅子製造、ブロンズシャンデリア、絨毯やタペストリー修復、椅子張り、タペストリー装飾を行う 100 人以上の技術者や作業責任者が働くモビリエ・ナショナルの修復工房のサポートも得られます。

本賞は、デザインとサステナビリティの観点から独創的なプロジェクトを選定し、フランスと日本の優れたサヴォアフェール（匠の技）の対話を創出することを目的としています

募集要項

対象

日本在住のデザイナーもしくは工芸家を対象とします。

選考スケジュール

応募開始：2023 年 12 月 15 日

応募締切：~~2024 年 2 月 26 日（月）~~ → **5 月 31 日（金）**まで延長いたします。

受賞者発表：2024 年 **7 月初め**

審査委員

審査委員会は、在日フランス大使館（1 名）、モビリエ・ナショナル（1 名）と、以下の日本の専門家 2 名で構成されます。

- ・榎本アコ 株式会社デアイ代表
- ・齋藤精一 Panoramatik 主宰

条件

レジデンス期間は、2024 年 **9 月**～**2025 年 12 月初め**のあいだの、約 1 ヶ月間となります。

（時期や期間については応相談）

受賞者の渡航費（日本—フランス）と現地宿泊場所（パリ国際芸術都市の個室）は、本賞主催者が支給・提供します。レジデンスはリサーチを目的とするものであり、製作費は支給されません。

応募方法

下記の応募書類を 2024 年 **5 月 31 日 (金) 24 時** (日本時間) 必着で、アンスティチュ・フランセ芸術部門 (dg.artistique@institutfrancais.jp) 宛にメールでお送りください。その際、件名を「デザイン賞応募」としてください。

※メールの添付ファイル容量が 5MB を超える場合は、外部データクラウドサービスや大容量ファイル転送サービス等をご利用ください。(会員登録が必要なサイトは受付不可)

応募書類 (英語もしくはフランス語と、日本語で作成すること)

1. プロジェクトの説明と、その実現に向けてモビリエ・ナショナルでのレジデンス期間中に行うリサーチについて説明した企画書 (最大 5 ページ)。プロジェクトのコンセプトや目的、素材についての情報などを含みます。また滞在希望時期もご記載ください。
2. 履歴書
3. 作品集/ポートフォリオ (写真、新聞記事、リンク等を添付しても可)
4. ポートフォリオの作品が応募者自身のものである旨を記した誓約書
5. 推薦状 (任意)

応募資格

- ・日本在住であること
- ・プロのデザイナーもしくは工芸家であること
- ・英語および/もしくはフランス語でのコミュニケーションが可能であること
- ・過去の作品 (ポートフォリオ) を提示できること
- ・滞在中、自立して行動できること
- ・滞在中はプロとして、報酬の発生する活動を行わないこと

※年齢制限はありません

審査基準

審査員による選考基準には、以下の要素が含まれます。

- ・プロジェクトが扱うテーマの妥当性
- ・フォルムの独創性、美的資質
- ・エルゴノミーへの配慮
- ・製品の産業化についての観点
- ・プロジェクトの革新性

- ・持続可能な開発に対する配慮
- ・フランスの工芸への関心、および／またはフランスと日本の工芸とを結びつけることのできるプロジェクト
- ・プロジェクトと、その芸術的、文化的、知的方向性が明確であること

結果発表

審査結果は受賞者にのみメールで連絡いたします。その後弊館ウェブサイト等で受賞者の発表を行います。

お問合せ

アンスティチュ・フランセ 芸術部門 (dg.artistique@institutfrancais.jp) 宛にメールでお送りください。その際、件名を「デザイン賞 質問」としてください。電話でのお問合せはご遠慮ください。



Photo © Mobilier national, Didier Herman

モビリエ・ナショナル Mobilier national について

フランス国営動産管理局モビリエ・ナショナルは、フランス文化省直属の公的機関です。17世紀より工芸とクリエイションの支援を行ってきたモビリエ・ナショナルは、その世界唯一のコレクションの保存と修復を行い、優れたサヴォアフェール（匠の技）を永続させ継承していくことを使命としています。現代のクリエイションやフランス装飾芸術の振興にも力を入れています。

モビリエ・ナショナルは、フランス国内外の公共建築物の何万点もの家具や装飾品の製作や修復を行っています。340名以上の職員が、パリと地方で、この機関の優れた技術を維持し、実践し、紹介するために日々働いています。ゴブランとボーヴェの工場はタピストリーを、サヴォヌリーの工場は絨毯を、ピュイ・アン・ヴレとアランソンの工房はレースを扱っています。アトリエ・ド・ルシェルシュ・エ・ド・クレアシオン (Atelier de Recherche et de Création - ARC -) は、フランスにおけるクリエイションとコンテンポラリーデザインの振興を目的としています。七つの修復工房は、木製品、鉄製品、テキスタイルといった異なる専門性を担っています。

未来を志向するモビリエ・ナショナルは、2020年に設立された「ゴブラン工場 工芸とデザイン専門学校」の創設メンバーです。その役割をつうじて、芸術的創造とコンテンポラリーデザインの活力を証言しています。

<http://www.mobiliernational.culture.gouv.fr/>

レジデンスについて

モビリエ・ナショナルの創造と修復のための工房は、その卓越したサヴォアフェール（匠の技）を継承し続けています。特に、公共建築物の家具や装飾を管理するアトリエ・ド・ルシェルシュ・エ・ド・クレアシオン (Atelier de Recherche et de Création - ARC -) で製作される作品は、モビリエ・ナショナル

の工房から生まれるすべての作品と同様に、フォームや製作技術の両面において、最先端のイノベーションを誇るフランスデザインの象徴であることを目指しています。

ピエーヴル川のほとりに位置する、15世紀から続くモビリエ・ナショナルの染色工房では、色彩を用いた芸術的な創作が行われています。シュヴルールの色見本帳と同様に、羊毛の色を2万色以上収録したデジタル色見本 N.I.M.E.S は、色を扱うレジデントアーティストにとって貴重なツールになり得るでしょう。

地元の羊毛産業の再生支援がこれまで以上に必要であるとの確信に基づき、モビリエ・ナショナルは専門家団体 Collectif Tricolor と協働し、フランス製ウールのリローカリゼーション（地域回帰）を推進しています。フランス製ウールを用いたコンテンポラリー作品を手がけるデザイナーの支援はその一環です。

技術リソースの提供

受賞者は、モビリエ・ナショナルの様々な工房とその優れたサヴォアフェール（匠の技）を利用することができます。例：羊毛染め工房、羊毛の2万色以上を収録した色見本、修復工

房（家具製造、椅子製造、ブロンズシャンデリア、絨毯やタペストリー修復、椅子張り、タペストリー装飾）、テキスタイル工房（垂直織機、水平織機）、など。



モビリエ・ナショナルの工房の風景© EETY Studio (Emi Endo+Yohei Tomooka)

プロフェッショナルおよびアーティストックサポート

受賞者は、アトリエ・ド・ルシェルシュ・エ・ド・クレアシオン（Atelier de Recherche et de Création-ARC-）の職人や、機織職人たちからのサポートも得ることができます。さらに家具製造、椅子製造、ブロンズシャンデリア、絨毯やタペストリー修復、椅子張り、タペストリー装飾を行う 100 人以上の技術者や作業責任者が働くモビリエ・ナショナルの修復工房のサポートも得られます。このサポートは、モビリエ・ナショナルの職人たちが、受賞者に専門知識を提供し、助言を行う定期的な交流の形で行われます。一方、モビリエ・ナショナルの工房は、プロジェクトの作品を実際に制作するためのサポートは行いません。

アンスティチュ・フランセ Institut français du Japon について

アンスティチュ・フランセは、フランス大使館直属の文化機関です。2012年9月にフランス大使館文化部と東京日仏学院、横浜日仏学院、関西日仏学館、九州日仏学館が統合して誕生。東京、横浜、関西（京都／大阪）、九州（福岡）、そして2019年からは沖縄（那覇）の5支部（6都市）を拠点に、フランス政府公式機関としてフランス語講座を開講し、フランス発の文化、思想、学問を発信しています。2014年よりヴィラ九条山もアンスティチュ・フランセの支部のひとつとなっています。

<https://www.institutfrancais.jp/>